



ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会

1. 概要

新型コロナウイルス感染症（Covid-19）の影響で、学校現場における実験、観察、調査を主体とする課題解決・探究型学習の推進に大きな困難を抱えている。一方で、SDGs3における「感染症の克服」をはじめとする地球的な課題に向けた児童生徒の探究意欲は高まっている。成果発表や交流の場が著しく制約されている児童生徒に向けて、研究発表と交流の場を提供するとともに、ユネスコスクール以外の学校に向けた先進的な教育的手法の実践を行うユネスコスクールとしての活動の意義を示したい。

2. 目的

①『UNESCO Associated Schools Network -Guide for Members』や新学習指導要領をふまえ、ユネスコスクールの意義・役割の理解促進をはかる。②積極的な取り組みを行っている他校の生徒の研究活動に刺激を受け児童生徒と教員が変容をめざす。③ユネスコスクールに新規に加盟を希望する学校がすでに十分活動している学校から情報提供を受け自律的に活動できるようになる。④本大会にはESD/SDGsのリソース提供団体教育関係者（大学、NPO、企業等）も参加するので、それらの団体と連携をとりながら今後の地域での活動に役立てる。

3. 日時 令和2年11月2日（月）

4. 主催 文部科学省 宮城教育大学

<開会行事>

13:00~13:10	開会挨拶：主催者 宮城教育大学副学長 前田順一 主催者 文部科学省 国際統括官付補佐 堀尾多香
13:10~13:40	ユネスコスクール・地球的課題研修会 一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) ダイバーシティ・ファシリテーター 木村大輔氏

<児童生徒発表>

発表時間	発表校名	タイトル	発表者	発表方法
13:40~13:52	宮城県気仙沼市立面瀬小学校	守ろう 作ろう グレート・オモトープ	面瀬小学校6年生	ZOOM 参加
13:54~14:06	宮城県気仙沼市立鹿折小学校	鹿折小学校 小さなユネスコ隊	半沢和奏・高田咲希 小野寺咲里・金野映	会場参加
14:08~14:20	宮城県気仙沼市立階上中学校	「伝承」 ～東日本大震災の教訓を次の世代へ～	小野寺夏実・武藤菜奈 及川亜彩・熊谷花音	ZOOM 参加
14:22~14:34	福島県只見町立只見中学校	世界と只見を結ぶ中学生の活動が町の結(ゆい) を強くする	山本愛佳	会場参加
14:36~14:48	福島県立安達高等学校	食べ残しは罪	山見坂琴子・鳥谷彩華 遊佐喬果・鈴木愛菜 梅津大輝・遠藤結輝	会場参加
14:50~15:02	宮城県仙台第三高等学校	照明光色が及ぼす心理的・生理的影響	小山瑞生・畔柳直旺 清野晃矢・高橋俊哉・根本悠世	ZOOM 参加
15:04~15:16	山形県立加茂水産高等学校	気候変動・地球温暖化と庄内の海	澤木幹太 藤井詩紋	会場参加
15:18~15:30	青森県八戸聖ウルスラ学院高等学校	心も身体も健康に～多文化共生を進め、すべての子どもたちを守る～	工藤美陽・豊川雛乃・豊川巴良 小林みちる・小野寺智香 タウロ・アンドリュー・ジュリアン	ZOOM 参加

<教員発表>

15:30~15:42	宮城県気仙沼市立階上小学校	「豊かな海 気仙沼」見つめよう 考えよう 気仙沼の水産業 学校・地域教材の特性を生かした海洋教育の実践	熊谷信彦	会場参加
15:44~15:56	気仙沼市立階上中学校	階上中学校の防災学習～地域と連携した『自助・共助』と東日本大震災の『伝承』～	大野実紗	ZOOM 参加
15:58~16:10	宮城県多賀城高等学校	～本校とインドネシア・サンタローレンシア校との交流を通して国際協働型プロジェクト学習～	佐藤智広・菅原淳史	会場参加
16:12~16:24	青森県立八戸北高等学校	青森県立八戸北高校の総合的な探究の時間	川越淳智	ZOOM 参加
16:26~16:38	北海道標津高等学校	小規模校だからこそできる町とつながるユネスコ活動～町とともに探究活動・特別活動を活性化する取り組み事例～	鈴木祐二	会場参加

<閉会行事>

16:50	表彰式 ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会実践大賞の発表 児童生徒のポスター発表優秀校の発表及び講評
17:00	閉会

2020年度
第2回 ユネスコスクール東北大会

『東北から世界とつながる意味』

2020年11月2日

木村 大輔

一般社団法人 グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)

グローバル教育プロデューサー

ダイバーシティ・ファシリテーター

調査・研究統括

木村 大輔

- ・GiFT グローバル教育プロデューサー／調査・研究統括
- ・明治学院大学 国際学部 非常勤講師
- ・ユネスコ 「変容を促す教育」「革新的なスクールリーダーシップ」会議
- ・アジアソサエティ 「21世紀型能力」研究プロジェクト日本代表
- ・広島県 『WWLコンソーシアム構築事業』海外交流アドバイザー

<ボランティア活動>

- ・青森県青年国際交流機構 元会長
- ・現代ビジネス「オックスブリッジの流儀」連載 委員

<略歴>

青森県弘前一中⇨県立弘前高等学校⇨日本大学文理学部
(ケンブリッジ大学留学)⇨オックスフォード大学院外交政策修士課程
⇨オーストラリア国立大学公共政策大学院

- ・ 国立青少年教育振興機構
- ・ 日興シティグループ証券(元日興ソロモンブラザーズ証券)
- ・ BNPパリバ証券
- ・ 内閣府青年国際交流事業プログラムコーディネーター
- ・ 国連開発計画(UNDP)移民難民・気候変動コンサルタント
- ・ 青森県庁から現在



今の自分は

『教育』を通じて世界を変える地球市民

高校生～大学生の自分

- 自信がない、役立たず
⇒自分の成功ばかり考えていた
- 他人の一面だけ見てジャッジ
- ザ・『井の中の蛙』
- 人に心を開かない
ひとりぼっち
- 自分と社会を切り離していた

インドの
ストリート
チルドレン
↓
大学院留学
人との出会い

今

- 誰かのために頑張るのが一番のモチベーション
- 頑張れば自分たちで社会を動かせる自信
- 内定取消→仲間からもらうチャンスに感謝
- **×**何になる
⇒**○**何を成し遂げる
- 個人の夢⇒社会の中の自分

一般社団法人 グローバル教育推進プロジェクト
(Global Incubation & Fostering Talents/ 略称: GiFT)

地球志民

Global Citizenship



私たちはいま、未来に何をGiFTできるでしょうか？

GiFTは、多様性の中から、新たな価値を生み出し、その価値を社会にGiFT（参画）できる場作りを通して、一人ひとりが持っている「地球市民意識(Global Citizenship)」を育む活動に取り組んでいます。



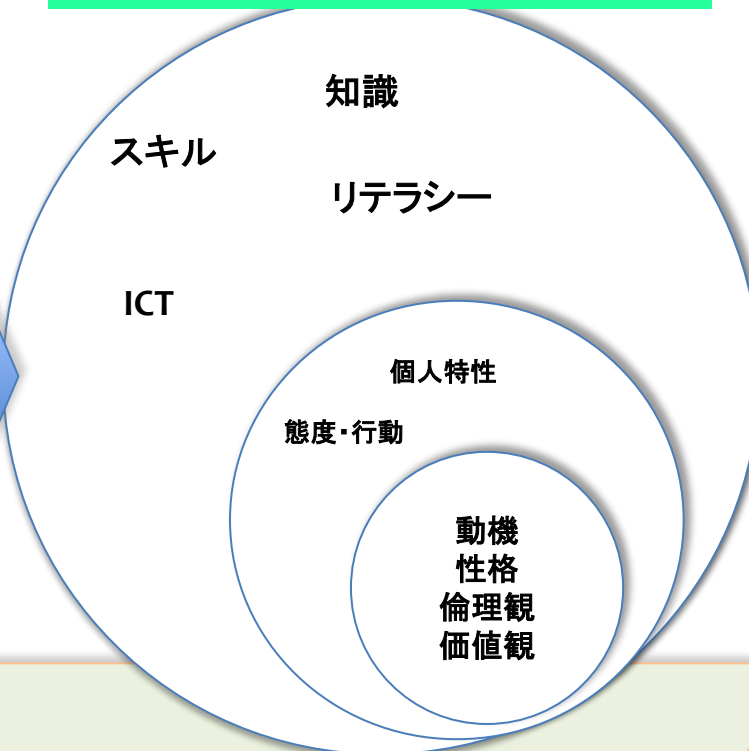
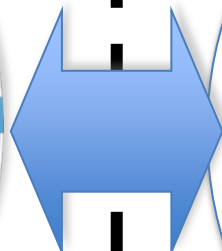
世界の分断化を軽減するグローバルシチズンシップ教育

Global awareness/ Global Citizenship

Sustainability/ Sustainable society



教育
グローバルシチズン教育



持続可能な開発のための教育

Technology supports new educational goals and methods

SDGsの当事者とともに学ぶ海外研修 出会った世界中の仲間と、変化を創る仕事を

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ブータン・パロ

ラオス・ビエンチャン

カンボジア・プノンペン

フィリピン・セブ

マレーシア・クチン

シンガポール

インドネシア・バリ

1 貧困をなくそう

2 健全なエネルギー

3 質の高い教育をみんなに

4 質の高い職業訓練をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

9 産業と雇用創出

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つるやみ消費

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさも守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう

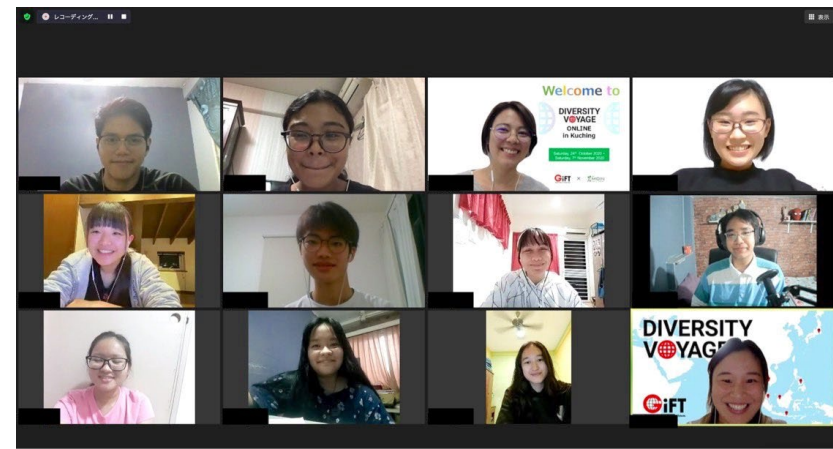
Diversity Voyage: 7カ国で実施

オンラインの実施 家からでも社会に貢献する機会がある Diversity Voyage Online (2020~)

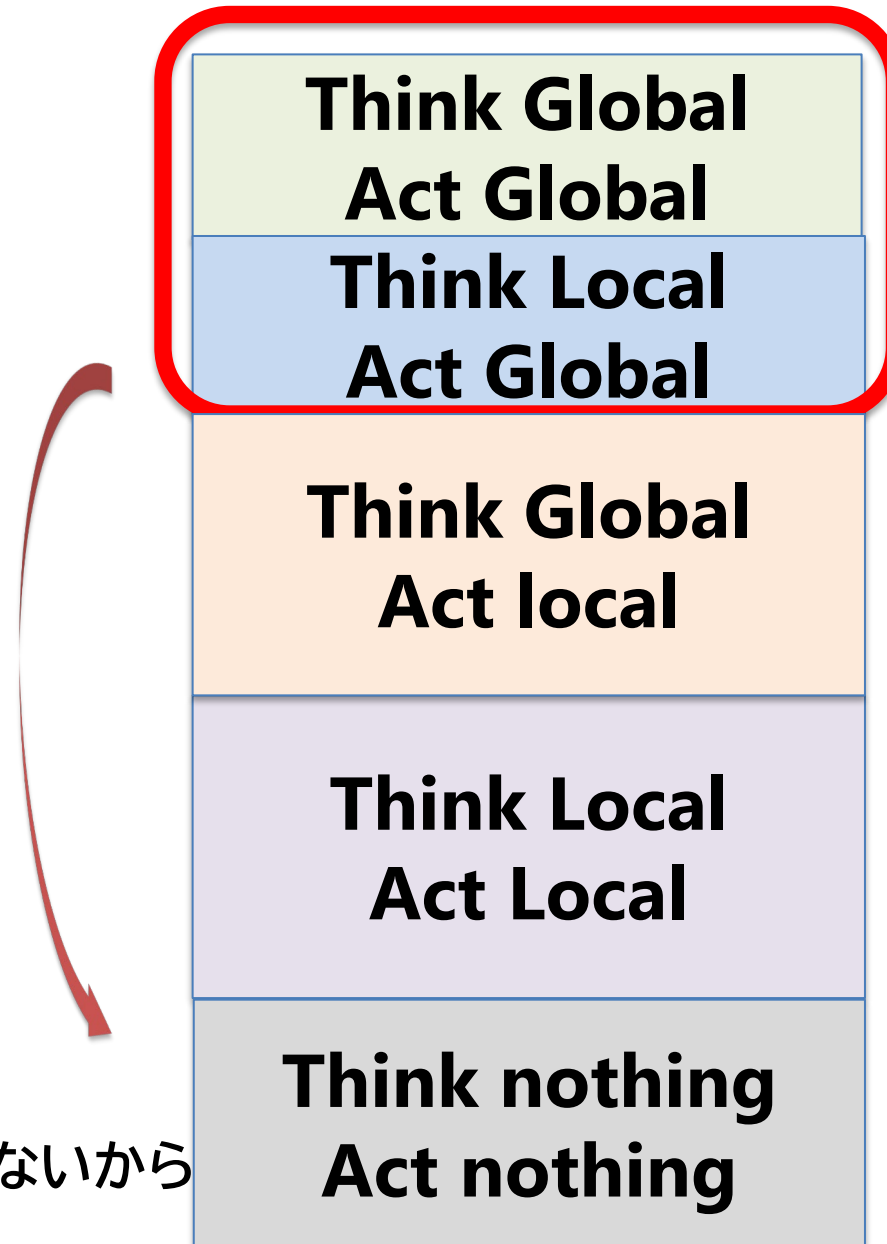
アジア7カ国の学生
24名とともに

臨時休校中の子供たち
に向けて

- 世界とつながる楽しさ
- 利他の精神
- 地球規模課題について学ぶ機会
- 大阪、青森とマレーシアを繋いで
多文化共生について考える)



Think globally, act locally?



東北だから
離れているから
機会がないから
ロールモデルがないから

KEEP YOUR EYES ON...

GiFTのFacebookページ

<https://www.facebook.com/J.GiFTproject>

いいね！を押して、
最新の情報を常にチェック！



https://hokkaidotohokuaspnet.com/

2020年11月2日(月)
13:00~17:00 開催 参加無料

第2回ユネスコスクール 北海道・東北ブロック大会

新型コロナウイルス感染症 (Covid-19) の影響で、学校現場における実験、観察、調査を中心とする課題解決・探究型学習の推進には大きな困難を抱えています。本大会では、成果発表や交流の場が著しく制約されるとともに、先進的な教育的手法の実践を行うユネスコスクールとしての活動の意義を提示します。

会場スケジュール
13:00~13:10 文部科学省 冠崎多恵氏
13:10~13:40 ユネスコスクール地域的課題研究会
木村大輔氏 (GIFT タイバーチャイフアドバイザー)
13:50~15:30 児童生徒 発表会(8校)
宮城県気仙沼市立瀬折小学校
宮城県気仙沼市立鷹上中学校
宮城県只見町立只見中学校
福島県立安達高等学校
福島県仙台第三高等学校
宮城県仙居成水産高等学校
山形県立加茂水産高等学校(5校)
青森県八戸市ウリスラ学園高等学校
15:30~16:30 教員 発表発表会(5校)
宮城県気仙沼市立鷹上小学校
宮城県気仙沼市立鷹上中学校
宮城県多賀城高等学校
青森県立八戸北高等学校
16:40~17:00 北海道・東北ブロック大会東西大賞授賞式

配信申込み：オンラインにて大会開催時に配信を受けることができます。以下よりお申し込みください。
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSP28C7g6PDCssuuNWqEKYFVWwfkUufb90iLEestusdL_B2LA/viewform

令和2年度文部科学省委託事業
「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」
主催：文部科学省・日本ユネスコ国内委員会、
宮城教育大学
後援：ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム
東北地方 ESD 活動支援センター
公益財団法人仙台ユネスコ協会、ほか

〒980-0845 仙台市青葉区常盤寺青葉149
宮城教育大学 研究・連携推進課 研究協力係
E-mail: kenkyo@adm.miyakyo-u.ac.jp



[ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会 - Transformative Action for 2030 \(hokkaidotohokuaspnet.com\)](https://hokkaidotohokuaspnet.com/)

宮城県気仙沼市立瀬折小学校 6年生

守ろう 作ろう グレート・オモトープ



検索 ...

最近の投稿

- 宮城県気仙沼市立瀬折小学校 6年生
- 宮城県気仙沼市立鷹折小学校 半沢和奏・高田咲希・小野寺眺里・金野映
- 宮城県気仙沼市立鷹上中学校 小野寺夏実・武藤菜奈
- 福島県只見町立只見中学校 山本愛佳
- 福島県立安達高等学校 山見坂琴子・鳥谷彩華・佐佐藤果・鈴木愛菜・梅津大輝・遠藤結輝

最近のコメント

アーカイブ

小さなユネスコ隊

気仙沼市立鹿折小学校4年生

私たちは世界で困っている人たちのために「今自分ができること」を考えて活動している小学校有志のメンバーです。2019年4月に活動を始め、学校や地域で様々な活動を行っています。

学校や地域で、「集め活動」や「募金」を行って、世界や日本で困っている方へ届けています。



自分たちにできる行動を呼びかけるポスターを作成しています。今では学校の多くの仲間が活動をする時に協力してくれます。

自分たちにできる、世界のための活動を、しっかりと続けていきたいと思います！



守ろう 作ろう グレート・オモトープ

気仙沼市立面瀬小学校 6年生

みなさんは、「グレート・オモトープ」を知っていますか。「オモトープ」とは、私たちの学校にあるピオトープの名前です。面瀬は、自然が豊かでたくさんの生き物がいるから、地域全体のことを「ピオトープ」に見立てて、「素晴らしいオモトープ」＝「グレート・オモトープ」と呼んでいます。私たちは、「グレート・オモトープ」を守って、さらに発展させていきたいという思いから総合的な学習に取り組んでいます。



学習の3つのステージ

世界とつながる「グレート・オモトープ」の生き物を学ぶ（1学期）

「グレートオモトープ」を守り、作る（2学期）

自分たちの思いや取組を発信する（3学期）

7つのテーマ、9つのチーム

- ①面瀬の生き物を守りたい。→そのために、私たちは、ふれあい農園の近くに生き物のすみかを作ります。
- ②野鳥の家園をつくりたい。→そのために、学校や尾崎防災公園の防災林に巣箱を設置します。
- ③魚を採りやすために（2チーム）→アマモの育て方と糸藻の設置方法を学び、実現するための募金活動を行います。
- ④尾崎でのり製法を復活させたい→のり製法の歴史を学び、尾崎の海でのり製法にチャレンジし、のり製法の効果をみんなに宣伝します。
- ⑤尾崎砂浜再生プロジェクト→砂浜の役割を調べ、尾崎防災公園を海浜公園として整備してもらえるよう市長さんに御願いします。
- ⑥海洋ゴミリを目指して（2チーム）→私たちは、海洋プラスチックゴミで素敵な小物を作って販売し、その収益を環境のために使います。
- ⑦地球温暖化をくいとめるための小さな一歩
→ゴミを減らすために、ゴミで楽器を作ります。食品ロス減らす取組をします。CO2を減らすための5つの取組を地元のラジオやケーブルテレビ、YouTubeでみんなに呼びかけます。

…今日は、これまでの取組の成果と課題を発表します

食べ残しは罪

福島県立安達高等学校
2年3組6班

12 つくば東区
つくば東区

山見坂 琴子 鳥谷 彰彦
瀧谷 隆史 鈴木 聖定
梅津 大輝 遠藤 晴輝



食品ロスとは

売れ残りや食べ残り、期限切れなど、本来食べることのできる食品が廃棄されること、またそれらの食品

世界食品廃棄ランキング

- 1位 イギリス
- 2位 オランダ
- 3位 アメリカ
- 4位 フランス
- 5位 ドイツ
- 6位 日本! (アジア1位)



食品ロスを減らすために

フードバンク

食べられるのに捨てられようとしている食品を無償で譲り受け、生活困窮者などへ配布の活動をする団体及び団体のことです。



フードドライブ

人が多く集まる所に食品を寄付する場所を作り、集まった食品をフードバンクで回収するという活動。

実際にやってみました!

① フードドライブ



クラス内でのフードドライブ活動で集まった食品



結果

- ・想定した以上の食品が集まった
- ・「学校でやることで参加しやすい」との声が上がった

② 食品ロスを減らすことを意識して生活

・期限が近いものから消費
・その日のメニューを考えて買い物
・食べられそうなら加熱して調理

結果

食品ロスがゼロには至らなかったが、確実に減らすことはできた。

私たちにできること

・食べ物を残さない
・無駄に買わない
という意識が重要!

対策

・フードバンクなどの機会の設定
・食品ロスの認知を広める活動
「食べ残しは罪!」

世界と只見を結ぶ中学生の活動が町の結(ゆい)を強くする

只見中学校 山本愛佳

中学生の思いと行動



町の人々の思いと行動

きれいな海を守りたい!!



海洋プラスチックゴミを上流から減らす



コロナで元気を失った町をなんとかしたい!!

自分たちでは限界がある

新聞紙でレジ袋を作成して使ってもらおう



町内のコンビニが新聞紙レジ袋を採用

只見にいながら海を守る活動をする



中学生を応援したい

テレビやラジオでも海ゴミを減らすことを訴える



町内の調剤薬局でも新聞紙レジ袋を採用

中学生が先生



町主催で新聞紙レジ袋教室開催



参加者が新聞紙レジ袋を作って中学校に寄付

17番の原点は「結」

海洋ゴミを減らす中学生 町が元気を取り戻す

「伝承」～東日本大震災の教訓を次の世代へ～

気仙沼市立陸上中学校 小野寺夏実 武藤奈奈 及川亜彩 熊谷花香

課題設定の背景	課題
<p>大切なことは、自分の命を守ることは「自助」、震りの人たちに助け合うことは「共助」</p> <p>震災から間もなく10年 ・東北 ・震災を知らない世代の増加</p> <p>⇒ 「伝承」する必要</p>	<p>震災を知らない世代へ -命の大切さ -津波の恐ろしさ -避難の大切さ</p> <p>を伝承するにはどうしたらいいだろうか</p> <p>令和2年度 防災学習テーマ 「自助・共助」の学びと次の世代への「伝承」</p>

調査

<地域住民への聞き取り調査>

- ① 地域の方にお願いいただき、東日本大震災当時の様子を聞く。
- ② ボイスレコーダーで録音と同時にメモで記録をとる。

- ① ①②を別の方でもう一度繰り返す。
- ② 聞き取った内容を整理し、自分たちのことと伝承すべき内容をまとめる。
- ③ 伝承の方法を考え、巻頭に付けて準備を行う。
- ④ 地域の方や関係者に向けて発信する。

<ご協力いただいた地域の方>

- ・気仙沼市議会議員 一層上地区自治会長 一層上地区防災推進委員
- ・気仙沼市東日本大震災遺構「伝承館」の語り部 東日本大震災形/下巻協会 筆

地域住民への聞き取り調査の様子

「伝承」するための方法として 紙芝居

○小さい子どもにもわかりやすい
○災害発生時の状況をイメージできる

考察

- 伝承により、自分共に防災意識を向上させることができた。
- 地域の方に聞き取りを行うことで地域のことを知り、地域と連携した防災学習にすることができた。
- 紙芝居は、難しさが理解することができ、伝承の方法として有効であった。
- ▲ 聞き取り調査で、多くの質問をすることで震災への理解を深める必要がある。
- ▲ 聞き取り調査だけでなく、本や新聞を用いて震災当時のことを更に調べることがある。

まとめ

更に、東日本大震災のことを学び、表現方法を工夫し、紙芝居等を使って震災の教訓を伝承していく。



気候変動・地球温暖化と庄内の海



「海を守る人づくり」 Protect the sea

目的

庄内の海の変化と気候変動・地球温暖化との関係について調査して、SDGs13(温暖化防止策)について考える

調査方法

- 山形県水産研究所でのデータ調査
- 図書館での書籍による一斉調査
- インターネットによる調査
- 漁師へのインタビュー

仮説

山形県漁獲量の減少は、気候変動・地球温暖化によるものである

気候変動

自然的原因：海洋の運動、太陽の活動による大気中の変化
人為的原因：化石燃料の燃焼

気候変動の状況

二酸化炭素量の増加
2018年から2019年の5年間で比べて20%上昇した

平均気温の上昇
地上の平均気温は、この100年間に約1.5℃上昇している。世界の平均気温は観測史上最も高くなり、その5年間で比べて0.2度上昇した。産業革命以前に比べて1.1度上昇している。

海面上昇
1992年以降の海面上昇は、2014年5月～2019年5月の5年間で、海面が5mm上昇し、IPCCの報告書によると2100年までに最大で5.9cmの海面上昇が予想されている。東洋になると、沿岸地域に住民200万人が、移住を余儀なくされる大規模な気候変動が危惧される。

海水温の上昇
気候変動によりさらに熱エネルギーの増加により、海洋に吸収、蓄積されているといわれている。

海洋酸性化
海洋は、毎年人工的に二酸化炭素供給のうちの3割を吸収しており、大気中の二酸化炭素濃度の増加が抑えられている一方で、海の酸性化が進んでいる。海洋の酸性度は、26%増加していると言われている。

気候変動はなぜ問題なのか
この20年間で観測された4457もの自然現象の約半数は気候状況により発生して、そのうち7割が「異常・極端な」自然現象に分類されている。異常気象で深刻化している。

南極は地球のタイムカプセル（65億年前からのメッセージ）
南極大陸を分層する氷床は、百万年以上にわたる気候変動の記録を残している。氷床は地球温暖化の歴史を知る重要な手がかりである。氷床下の氷層は、地球の運動の記録が保存されている。

地球温暖化

世界平均気温は、1900年から、2012年までの12年間で、0.52度の上昇
大気中の二酸化炭素濃度は、産業革命以前に比べて、40%増加
地球温暖化による気候の上昇は、海水面上昇も引き起こす。

地球温暖化の原因は二酸化炭素の増加による温室効果
二酸化炭素は森林が取り込み、酸素にして大気中に放出。酸素への還元は、植物にしかない。二酸化炭素を吸収する存在は、植物以外には、海洋生物には、二酸化炭素を吸収する能力がない。地球温暖化が引き起こす1971年から2010年までの40年間に蓄積された熱エネルギーの9割は、海洋に吸収されている。

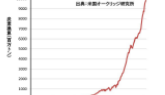
人間の生活活動で放出された二酸化炭素の約3割が、海洋が吸収している。そして海洋自身が地球温暖化を進めていることになる。熱エネルギーを吸収し、海面の上昇し、海面が膨張して海面水位の上昇が世界に発生している。海洋は地球温暖化の被害を知る役割を担っている。一方、海洋は、熱を吸収することで、自身も温暖化している。

【温暖化インパクト】
① 上昇 海洋の白化
海水温は白化を招き、プランクトンの光合成が阻害し出すことで、2℃上昇 異常気象頻発が増加
② 上昇 多くの海洋生物の生息域が縮小→プランクトンが減少する
③ 上昇 海産物の減少による食糧不足
④ 上昇 マンパインドレーが縮小する

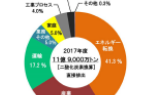


山形県立加茂水産高等学校

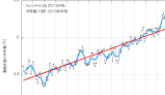
世界の気候変動による二酸化炭素濃度の増加



日本の二酸化炭素排出量の割合



世界の平均気温の上昇



2017年までの10年間の平均海面水位の上昇率



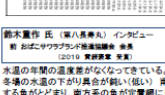
地球の年平均海面水位の平均年率の推移



2017年までの10年間の平均海面水位の上昇率



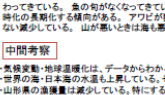
山形県



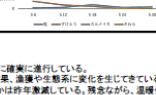
国産漁獲量



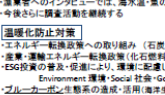
海水温の上昇



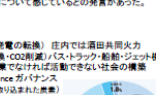
漁獲量



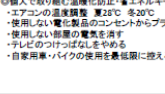
海水温の上昇



漁獲量



海水温の上昇



漁獲量



海水温の上昇



漁獲量



照明光色が及ぼす 心理的・生理的影響

仙台第三高等学校 SS探究活動 C4班 氏名 小山瑞生 畔柳直旺 清野晃矢 高橋俊哉 根本悠世

はじめに

研究背景

現代において人類は昼夜関係なく照明に囲まれている。
先行研究：人間が得る総睡眠のうちの0%は暗闇から。
→人は作業を行う際は照明から最も強い影響を受ける

日本人の多くがデスクワークで労働時間が長く、労働条件の短縮に関する問題は早急に解決すべき

限られた時間でより集中して作業に取り組めるようにし、労働時間の短縮の一助になり得るような探究活動を行う

先行研究調査で判明したこと

① 知覚感情と情緒感情に対する効果

緑色(赤、黄色など) → ヒトを積極的、能動的、興奮状態へ

青色(青など) → ヒトを消極的、鎮静状態へ

② メラトニン (睡眠ホルモン)の一種

明るい場所→減少 暗い場所→増加

③ 太陽光に近い色→ヒトの脳は覚醒

実験の方法について

① 学校の自習室内にある個人用ブースで、照明に4色(青、黄色、緑、赤)のカラーテープを貼り、明るさも異なるブース(白)も用意する
② ブースごとに照明光色を変化

③ 本校の有志の生徒に準備した計算問題を解いてもらう
異なる難易度の問題100問ずつを3回分、計300問用意
④ 1回目5分、2回目8分、3回目は10分の制限時間
それぞれの色ごとに回答を回収
⑤ 実験終了後アンケートを回答してもらう
⑥ 実験を終えての感想などを聞く

この実験を行う目的

照明色が計算という作業にどのような影響を与えるのか検証
→どの色が作業効率に最も強い影響を与えるか探る

温暖化防止対策

① 個人で取り組む温暖化防止とエネルギー対策(温暖化防止対策)
② エコな温度調整 夏28℃ 冬20℃
③ 使用しない電化製品のコンセントからプラグを抜く
④ 節電の習慣を身につける
⑤ 子どものついでにエコをやる

参考文献

作業効率と覚醒水準の逆り関係から評価されたオフィスにおける適切な照明条件 戸田 直広 他 日本生理人類学会誌より (2016)
作業空間におけるLED照明の光色による心理的・生理的影響に関する研究 江崎 悠 他 日本建築学会環境技術論文集より (2016)
作業の満足度と照明環境との関係について 藤上美智 他 照明学会誌第5号 第5号より (1997)
照明環境要素の昼後の影響に関する研究 杉本 賢 照明学会誌第6号 (1998)

まとめ・今後の展望

アンケートと計算問題の実験結果

緑色・身体的余裕とリラックス効果が表れた
→計算問題での平均値も高い → 緑色が最適

青色

アンケート→全体的に高評価
計算問題 → 平均値を下回る
→ 青色は集中力で活用できる可能性がある
今後の活動 → 今回取れた結果を元にした緑色だけでなく、黄色などほかの色の活用方法も探究

3. 結果・考察

実験結果について

実験者計50名(各色10人)のデータが取れた
アンケート
① 本文の読みやすさ、リラックス、やる気、集中、身体的余裕の項目の結果を抽出、4色を白と比較する。

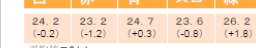
赤：5つの項目すべて評価が高い
→ 作業に適さない

黄色：すべて評価が高く、バランスが良い
→ 作業への意欲向上

青：文字が読みにくい、やる気の減衰
→ 長時間の作業に向かない

緑：リラックスと身体的余裕がある
→ 長時間の作業が可能

白	赤	青	黄色	緑
24.2	23.2	24.7	23.6	26.2
(-0.2)	(+1.2)	(+0.3)	(-0.5)	(+1.8)
平均値 = 24.4				



考察

解決策を探るために多くの方のご協力をいただきました。その結果見えてきたものは、「解決の鍵は、私たち自身」というものでした。世界と田舎の関係について今後もっと深めていきたいです。

- 学校名 八戸聖ウルスラ学院高等学校
- 発表者 工藤美陽、豊川雅乃、豊川巴良、小林みちる、小野寺智香、タロ・アンドリュウ・ジュリアン(計6名)
- テーマ 心も身体も健康に〜多文化共生を進め、すべての子どもたちを守る〜
- 発表概要

要約

八戸聖ウルスラ学院高校は留学生が多く、海外長期留学に行く生徒が多いため国際交流が盛んな学校です。そのような環境を生かして、「総合的な探究の時間」でSDGsの学習や模擬国連を通して世界について知る取り組みが行われています。しかし、「世界の課題」と聞くと、どうしても「他人事」に感じてしまうというジレンマがありました。そこで、高校2学年が各班に分かれて「青森県とSDGs」というテーマで調べ学習を行い、青森県で起こっているSDGsの問題に着目したプレゼンテーションを実施しました。

問題×職業×SDGs

「誰かが解決してくれる」ではなく、「私たちが解決する」という考えを持つために、将来目指している(または、関心を持っている)職業に就いた場合に問題解決にどう関わることができるかを考えました。

虚待といじめ件数の増加

全国的に虚待もいじめ件数も増加していますが、青森県の過去最多を更新しており、深刻な状況です。これらの問題は、SDGsの項目「3・すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」が達成されていない状況だと言えます。

ウルスラ生だからこそ視点

虚待もいじめも私たちがすぐに解決できるものではなく、原因は複雑で多数ありました。そのため、「ウルスラらしい視点」を持ってこの問題に取り組むこととし、青森県南地域の特性を分析した上で「外国にルーツを持つ子ども」の存在に注目しました。

アンケート・インタビュー調査から見えてきたもの

外国にルーツを持つという点、「英語力を鍛えて異文化理解のための豊富な知識が必要…」と私たちが考えていました。しかし、実際に話を聞いてみると見えてきた一番の問題は、「人手不足」でした。世界に目を向けて夢や希望を持つことはとても大切ですが、足元を見えていなかったことに気づかされました。

感想

解決策を探るために多くの方のご協力をいただきました。その結果見えてきたものは、「解決の鍵は、私たち自身」というものでした。世界と田舎の関係について今後もっと深めていきたいです。